会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回教員研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和2年8月24日（月）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　員：上里　政光、岡村　慎一、植上　一希、猪俣　昇、岩切　直子  計6名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1.委員長挨拶（上里）  2. 事業計画の概要（岡村）  ・ICTの使用、非認知能力の開発を軸とした教員研修プログラムを開発  ・学習評価WG…非認知能力の評価基準の作成等  ・ICT活用研修WG…アダプティブラーニング教授法の確立等  3. ICT活用研修プログラム開発の概要（猪俣）  ・目標  　①デジタルコンテンツ（ICT ）を活用したアダプティブラーニング教授法の確立  ②その方法を習得する研修プログラムの開発  　　・年度ごとの活動（令和2年度）  ①令和2年9月  各種教育機関が取り組んでいるアダプティブラーニングに関する  実態調査（アンケート調査）  　②令和2年10月～令和3年1月  デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングに関する  実態調査（ヒアリング調査）  　　・年度ごとの活動（令和3年度）  　　　デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の開発  　　・年度ごとの活動（令和4年度）  　　　デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法を修得  するための研修プログラムの開発  　　＊意見交換  　　　調査・開発を進めるにあたってICTの定義を確認する必要がある。  専門学校としては、生徒全員が学習成果を出せるための仕組みが必要。  4. 学習評価研修プログラム開発の概要（植上）  ・2020－22年度の目的  　職業教育で重要な「非認知能力」を評価するための教員研修プログラム  　開発　⇒評価基準作成のための　①手引き　②研修プログラム  ・2020－22年度の問題意識   1. 専門学校生・卒業生、教員にとって重要な非認知能力 2. 専門学校教育で適切(明確)に位置づけられていない非認知能力   ・2020－22年度の課題設定   1. 専門学校教員が非認知能力を目標・評価していくための基本的な手順の整理 2. 共通点などの抽出　汎用的なモデル化と分野ごとのモデル化   ・2020年度調査について   1. 非認知能力の評価基準に関する実態調査（アンケート調査） 2. 協力校への調査（ヒアリング調査、アクションリサーチ）   　　＊意見交換  　　　分野としての非認知能力を明確化・評価の掘り下げ、また、生徒一人  一人の非認知能力の明確化も考慮していくと良い。  5. スケジュール確認  ・当開発委員会は第2回を令和2年11月、第3回を令和3年2月に  オンラインでの開催を予定している。  ・11月は各WGの調査結果が出たところで開催する。  ・各WGは東京・沖縄を除いた委員の方々が所在している都道府県にて  　対面での開催を予定。（開催方法は開催時の状況に合わせて決定）  6. その他  ・成果報告会は、オンラインの予定。開催方法を検討する必要がある。 |
| 配布資料 | ・事業計画書  ・2020年度ICT活用WG事業計画  ・2020年度学習評価WG事業計画 |

以上